



大学病院だより

病院長就任にあたって

病院長 藤井 秀樹



本年4月1日に病院長に就任いたしました藤井秀樹です。私は、この病院が開院しました昭和58年に京都から赴任し、その後の31年間、病院とともに歩んでまいりました。平成15年からは第一外科(消化器、乳腺・内分泌外科)を教授として担当し、平成18年からは副病院長を務めました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

大学病院の使命のなかでもっとも大切なのは、一人ひとりの患者さんに、大学病院だからこそ提供できる最新の高度な医療を、安全に、そして安心して受けていただけるようにすることです。私たちも常に努力しておりますが、皆様のご協力も必要です。「共に考える

医療」を実践していきましょう。さらに私たちは、一人ひとりの患者さんが最良の医療を受けられるためには、全職員が患者さんのために一つのチームとなることが重要と考え日々実践しています。皆様に本院のチームワークの良さを感じていただけるのではと思います。

大学病院のもう一つの使命に、よき医療人、医学研究者の育成があります。山梨大学は世界的な研究拠点を目指していますが、医学の分野でも、高度で安全な医療の基礎となる研究、教育で一流を目指して努力しています。そのため、医学部学生の教育・実習ならびに研究的医療が行われておりますが、ご理解、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

6月30日に新病棟が竣工いたしました。これからは皆様のために努力を続けてまいりますので、ご支援くださいますようお願い申し上げます。

副病院長就任のごあいさつ

副病院長(安全管理担当) 平田 修司



4月より藤井秀樹前副病院長(現病院長)の後任として、附属病院の安全管理担当の副病院長を拝命いたしました。

近年、医療が高度化・複雑化するとともに、それに内在する危険性はむしろ増大しています。したがって、大学病院のような高次医療機関において、患者さんに安心・安全かつ高度な医療を受けていただくためには、医療安全の確保・向上が重要な課題となっております。この医療安全の確保には、医療行為に従事するさまざまな職種間のチームとしての力が不可欠であり、本院ではこれまでも「病院全体が一つのチーム」という理念の下、強力な安全管理体制を築いてきました。来年初頭に新病棟を開設しますが、その際に医療安全に関するトラブルが生じることのないよう、本院における医療安全の確保・向上をより進めてまいります。

なお、医療安全の確保・向上には、患者さんやご家族のご協力が不可欠であり、本院では患者さんやご家族もチーム医療の一員と考えてまいりました。そのために、たとえば、患者さんの誤認防止の目的で、患者さんご自身にお名前を名乗っていただく、などのご協力をお願いいたします。今後とも本院における医療安全の確保・向上のために、患者さんならびにご家族の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

副病院長就任のごあいさつ

副病院長(防災担当) 松田 兼一



5月より副病院長を拝命いたしました救急部・集中治療部部長の松田兼一でございます。本年度から設けられた防災担当副病院長を担当することになりました。よろしくお願い申し上げます。

本原稿を書いている最中にも、埼玉県北部、茨城県南部、小笠原諸島西方沖と立て続けに大きな地震が発生しておりますし、口永良部島、桜島、蔵王山、箱根山などの火山活動も活発になっております。関東地方で大災害が発生すると言われ続けて数年が経ちますが、いよいよ現実となるかもしれないと危機感を抱いております。いざという時の地域医療に対する大学病院の役割は大変大きいと考えます。地域の皆様の期待に応えるためにも日頃からの備えが重要です。

そんな中、今年も600名以上が参加した大規模なトリアージ訓練が5月30日に行われ、15回目の訓練に相応しい成果を感じた次第です。本訓練にご参加いただいた県や市、保健所、近隣病院職員の皆様を含め病院職員の皆様、学生諸君には心から御礼申し上げます。災害時にこそ、病院全体が一つのチームとなり、地域医療に貢献できるよう、いざという時の備えを十分にしていきたいと思っております。これまで同様、関係各位の皆様のお力をお借りしながら、災害・防災対策に努めていく所存です。よろしくお願い申し上げます。

5月30日「みんなで考えて行動する参加型トリアージ訓練」をキーワードに、山梨県内関連施設との連携を重視した訓練を行いました。学内・学外参加者、見学者を含む600名余りの方々に参加いただきました。今年度の訓練の特徴は、軽症者の受入れ場所として昨年度運用開始した病院立体駐車場を緑ゾーンとしたこと。また、被災状況や患者受入状況等を関係機関と情報共有するためのツール「広域災害救急医療情報システム(EMIS)」の情報登録訓練や、EMISを運用した外部DMAT隊の受入れ対応訓練を実施したことです。反省点もありましたが、訓練の結果を踏まえ、より良い災害医療が提供できるように努めてまいります。

「難病医療費給付制度」について

医事課

平成27年1月に「難病の患者に対する医療等に関する法律」及び「児童福祉法の一部を改正する法律」が施行され、新たに「難病医療費給付制度」が実施となり、本院も県より医療機関の指定を受けました。

新制度により、給付負担の内容や助成対象、患者自己負担上限月額等が変わりました。対象疾病も小児慢性特定疾病が700疾病に、指定難病は110疾病となり、さらに7月1日から196疾病が追加され指定難病は306疾病に拡大しました。対象疾病の患者さんは主治医に相談の上、病院玄関ホール7番窓口「医療福祉支援センター(相談窓口)」または、制度の申請窓口である県内各保健所等へお問い合わせください。下記の関連機関のHP、または、院内掲示板でも詳細が確認できます。

(参考サイト)

山梨県福祉保健部健康増進課

<http://www.pref.yamanashi.jp/kenko-zsn/>

難病情報センター HP

<http://www.nanbyou.or.jp/>

小児慢性特定疾病情報センター HP

<http://www.shouman.jp/>

防災トリアージ訓練について

管理課

5月30日「みんなで考えて行動する参加型トリアージ訓練」をキーワードに、山梨県内関連施設との連携を重視した訓練を行いました。学内・学外参加者、見学者を含む600名余りの方々に参加いただきました。

今年度の訓練の特徴は、軽症者の受入れ場所として昨年度運用開始した病院立体駐車場を緑ゾーンとしたこと。また、被災状況や患者受入状況等を関係機関と情報共有するためのツール「広域災害救急医療情報システム(EMIS)」の情報登録訓練や、EMISを運用した外部DMAT隊の受入れ対応訓練を実施したことです。

反省点もありましたが、訓練の結果を踏まえ、より良い災害医療が提供できるように努めてまいります。



科長就任のごあいさつ



本年3月に心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科の科長に就任いたしました。当科では3領域の各グループが専門分野を担当し、患者さんの状態によっては緊密に協力して診療にあたっています。対象の病気としては狭心症、心臓弁膜症、大動脈瘤、肺がん、気胸、小児の消化器疾患、小児腫瘍などです。

さて、山梨県でも高齢者が大変増加しており、当科の患者さんも増加しています。

心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科 科長 中島 博之

当科では手術が治療の中心ですが、その負担を少しでも軽くするために、胸腔鏡下手術、腹腔鏡下手術、ステントグラフトなどの低侵襲治療も安全を最優先にして積極的に取り入れています。また、近年の医学の進歩により、同じ病気でも複数の治療の選択肢が得られるようになりました。当科では患者さん一人ひとりの年齢や体力、併存症はもちろん、ご家族やお仕事の状況なども考慮に入れ、また、患者さんのご希望も最大限に尊重して治療方針を決定しています。当科を受診したからといって必ず手術になるわけではありません。体調で気になるところがあれば、早期発見、早期治療のためにも、お気軽に外来を受診されることをお勧めします。

病院再整備の状況

病院経営企画課

本院再整備事業の一環であります新病棟建設についてお知らせいたします。

平成25年3月より建設工事に着手した新病棟ですが、無事、約28ヶ月の工期を経て、6月末に竣工・引渡を迎えることができました。工期中にはご迷惑をおかけすることもありましたが、ご理解とご協力をいただき、感謝いたします。

新病棟（地上7階・免震構造・屋上ヘリポート完備）の1階から3階は、救急部・栄養管理部・手術部・集中治療部・材料部・病理部の各部門から構成され、それぞれ機能強化が図られています。例えば、手術室は現状の10室から3室増設し13室となりました。また、1室あたりの面積を拡張し高機能手術をはじめとする様々な手術に対応できる環境を整備しました。

4階から7階にかけては病室が整備され、既存病棟から356床が新病棟へ移転します。今後は新病棟の稼働に向け、業務シミュレーションの実施や医療機器等の搬入・据付などの準備を行い、年末の移転後、平成28年1月より本格的に稼働させる予定です。

一方、病院再整備事業は、今後も残りの病棟や外来棟をはじめとする既存施設のリニューアル工事を予定しており、社会情勢の変化や本院を取り巻く環境を敏感に感じ取りながら、最新の医療と安全で快適な療養環境の整備を目指してまいります。引き続きご支援の程、よろしくお願いいたします。



【新病棟南側より】
(H27.5.23撮影)



【新病棟4床室内観】

最新の医療と安全で快適な療養環境の整備を目指してまいります。引き続きご支援の程、よろしくお願いいたします。

SPECT-CT装置が新しく導入されました

放射線部

放射線部のRI検査室（核医学検査室）に新しくSPECT-CT装置（写真）が導入され、今年4月より運用が始まりました。

RI検査は放射性同位元素（RI）を注射し、薬剤の分布を調べる検査です。この検査は、体の機能や病気の状態を調べることに優れ、SPECTにより体の断面の画像も得られますが、画像はぼんやりしており鮮鋭さに劣る欠点があります。

そこで、体の構造がきれいに描出できるCTやMRIの画像と見比べ診断していました。しかし、SPECTとCTやMRIは別々な装置であり、検査を行う時期も異なるため正確な判断が難しい病気もありました。

今回導入されましたSPECT-CT装置はSPECTとCTが一体となった装置であり、SPECT画像とCT画像を1回の検査で得ることができます。そのため、両者の画像を正確に重ね合わせる（融合）ことができるため、小さな病変や病気の周りの臓器との位置関係がはっきり分かるようになります。

SPECT-CT装置を用いた融合画像は、これまで得ることができなかった情報の把握に役立ち治療方針の決定、手術や治療の経過観察にも有用であると考えられます。



SPECT装置とCT装置が一体となったSPECT-CT装置

看護師長就任のごあいさつ

4階東病棟 岩澤 久美



4月より4階東病棟の看護師長に就任いたしました。

4階東病棟は、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科で構成されています。患者さんの年齢層も乳児から老年期と幅広く、近年は80～90歳代の手術も増えてきています。病期も重症ケアを必要とする急性期、継続的な治療やリハビリテーションが必要となる慢性期や回復期、そして終末期と多岐にわたっており、とても忙しい病棟ですが、患者さんが安心して治療が受けられるよう、患者さんやご家族の訴えに耳を傾け、思いに寄り添いながら看護を行っています。スタッフ一同これからも頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

看護師長就任のごあいさつ

医療福祉支援センター 穴水 美和



4月より医療福祉支援センター看護師長に就任いたしました。

医療福祉支援センターは医療福祉相談・がん相談・在宅医療支援・転院支援などを行っています。外来ホール7番窓口にあり、どなたでも気軽に相談ができるようにオープンスペースになっています。静かにゆっくり相談できるように個室もあります。「患者さん・ご家族の抱える不安が軽減できるような支援、経済的・心理的・社会的問題の解決のための援助、患者さんの意志を尊重した在宅医療の推進など、総合的な医療サービスを提供する」ことを目的とし、医師・看護師・コメディカル・訪問看護ステーション等、多職種と連携を取り、患者さんやご家族が安心して療養生活が送れるように支援しています。

看護師長就任のごあいさつ

教育担当 永田 明子



4月より看護部管理室教育担当に就任いたしました、永田明子です。

看護部教育担当は、病院の理念である「一人ひとりが満足できる病院」に基づき、看護師一人ひとりの力をつける支援をしています。そのひとつとして、看護師の研修企画・運営をしています。今年4月に87名の新採用者を迎え、点滴、血糖測定、車椅子への移動や薬の管理など、様々な看護技術を学び、患者さんの状態に合わせ、安全・安楽を考えながら看護ができるようにしています。

本院では入院患者さんに、担当の看護師をつけています。患者さんの健康問題を解決するために、患者さんとともに考えられる看護師となれるよう、今後も看護部の教育担当として努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。